

学校評価懇話会だより 後期号

平成31年2月19日発行 埼玉県立羽生高等学校

第2回 学校評価懇話会 報告

- 1 日時 平成31年2月7日(木) 午後3時00分～午後4時30分
- 2 会場 本校3階 会議室
- 3 次第

(1) 校長挨拶

(2) 懇話会参加者自己紹介

■学校評議員	3名
■学校評価懇話会委員	1名
■生徒会役員	5名
■事務局	13名

(3) 部活動結果報告

県民総合体育大会入賞：陸上競技部、剣道部、バドミントン部、テニス部

(4) 平成30年度「学校自己評価」

① 平成30年度分掌シートに関して

・教務部

課題は、生徒の実態に即した学習環境の整備とホームページ及び各種便りでの情報発信。教員研修会を行い授業方法について協議・意見交換を行った。基礎学力向上補習に新しく「日本語基礎」を開講し、出席カードを制作した。来年に向け実施時期等を工夫したい。

・進路指導部

本校が2期制であること(10月にならないと成績が通知されない)に関係するが、夏休みの進路活動が活発にならない。外部から就職支援アドバイザーを招き個別に面接指導を行った。また6月には分野別模擬授業、10月には演劇型の進路講演会を行った。講演会のアンケートでは参考になったとの回答が90パーセント以上となった。

・生徒指導部

前年度と比較し、特別指導の件数が6割減少した。学校生活アンケートを年2回実施している。アンケート結果から必要と思われる回答があった場合は個別に面談を行い、実態把握をしている。来年度の課題としては、二輪車に関する課題が挙げられる。

② 教科シートに関して

少人数であることを活かした指導を行っている。そのための工夫として、映像教材の使用、小テストの実施、スモールステップで学習を進めることなどを行っている。また授業を通し基礎的な生活習慣を身につけられるよう指導を行っている教科もある。

③ アンケートの集計・分析結果に関して

教員、保護者、特別講座、近隣住民にアンケートを実施している。過去3年間の推移もわかりやすくまとめた。3年間で向上している項目が多かった。授業アンケートは年2回実施している。生徒の授業や試験への意識付けとなるよう工夫したい。大半は生徒からの要望無しであったが、授業内容を易しくしてほしいとの意見もあった。

④ 平成30年度学校自己評価システムシート

研修会の実施など教員の授業研究により、授業力の向上が見られた。また授業アンケートでは肯定的な回答が増加した。また来年度からは、日本語を母語としない生徒向けの講座を開講する。新学習指導要領が施行されるのに合わせて、新設科目「カルティベートタイム(仮称)」を検討している。

保護者アンケートでは、生徒のマナーについて肯定的な回答が昨年に比べ大幅に増加した。教育相談に関しては保護者や外部機関との連携をさらに強めていく必要がある。

ホームページの更新数、アクセス数が増加となった。また特別講座には59名、夏期公開講座には74名が参加し、いずれも好評を得ている。

(5) 意見交換

① 生徒会役員

- ・羽生高校にはフレンドリーな先生が多くて相談しやすい。
- ・頭髪服装が自由なのが良い。
- ・自動販売機にメロンソーダを、談話室に電子レンジを置いてほしい。
- ・ゴミの分別ができるようになってきた。
- ・部活、行事に一生懸命に取り組んでいる。
- ・教室に入ると香水のにおいがする。
- ・夜間部の休憩時間が短い。
- ・昼間部と夜間部の関わりが薄い。

② 学校評議員

- ・いろいろなことに苦勞されており努力されている。
- ・生徒には自分で考え壁を乗り越える力が必要だと思う。
- ・授業の工夫など良い変化が見られる。
- ・早期離職は大きな問題である。自分と職業のマッチングを考えるべきだ。
- ・特別講座は実用的なものは人気がある。
- ・SNSトラブルの他にも、スマホゲームなどの課金がトラブルになるケースがある。
- ・生徒にとって先生との思い出は素晴らしいものである。

(6) まとめ、謝辞

今回頂いたご意見を学校自己評価システムシートに記載させて頂いてホームページに掲載させていただきます。生徒の皆さんもいろいろなお意見をありがとうございました。